



開所日時 月・水・木・金曜日 15時～18時  
土曜日 10時～13時

### 児童デイ ハイテクの活用

技術の進歩とともに、支援の現場もコンピュータなどを駆使したハイテク化が進んでいます。

日常生活のなかにもパソコンや携帯電話が浸透しており、これらを活用することで、当事者も支援者も便利になったり、生活の質が向上することが多くあります。

例えば、今まで手描きで描いていた絵カードがインターネットを利用することで手軽に画像を手に入れることができるようになったり、文字を書くことが困難な人が携帯電話のボイスレコーダー(声の録音機能)を使って、メモの代わりとして活用したり。

特に発達障害のある方は機械に興味関心があり、操作も得意であることが多い為、活用してみたいと思っていました。そこで今回導入したのが写真の「子ども用デジタルカメラ」。デジタルカメラは撮った画像をすぐその場で見ることが一番の長所です。また、子ども用に設計してある為、操作は簡単、落としても水に濡らしても壊れない、安心・安全設計!

#### 主な使い方は以下の2通りです。

- ① 言葉でうまく伝えることが困難な子に、伝えたい事柄を写真に撮ってもらい、コミュニケーションの道具として使う。
- ② 写真を撮ることに興味のある子に活動の記録や集合写真などを撮影する「係り」になってもらい、役割をまかせることで達成感や自信につなげてゆく。

まだまだいろいろな可能性を感じるので、今後どのような使い方ができるのか楽しみです。



子ども用デジタルカメラ



裏側

## 第2回児童デイ家族懇談会報告

今年度2回目の児童デイ家族懇談会を1月16日(土)にまごころふれあい広場にて開催いたしました。

今回も保護者の方と子どもさんの様子についての情報交換、児童デイの活動についての意見交換をさせていただきました。ぜひ今後の支援に活かしてゆきたいと思えます。

また、前回主な話題となった卒業後の支援について、まごころとしてどのようなサービスができるのか具体的な検討が行われました。様々な意見、ご要望を要約すると以下のようにになりました。

- ・最も望まれるのは、中高生対象のプログラムのあるデイサービス(「お預かり」ではない)
- ・幼稚園の園庭開放のように、自由に出入りできる「居場所」としてのサービス(対象者の障害の有無、年齢の制限なし)
- ・リトミックや“よさこい”、工作を通じた作業体験などの「教室」の開催(対象者はまごころ卒業生の中高生)

今後ご家族のお気持ちを誠実に受けとめ、どのような支援が可能なのか継続して検討したいと思えます。

また、第1回、第2回とも、保護者の方からのニーズの多くが「卒業後の支援」に関するものであった為、今後は会の名称を「家族懇談会」ではなく「卒業後の支援を考える会(仮)」として趣旨を明確にして話しあってゆきたいと思えます。

次回は3月17日(水)10:00~12:00を予定しております。

※こちらの不手際により第2回開催のお知らせが遅くなってしまい、参加を希望されていた方にはご迷惑をおかけいたしました。深くお詫び申し上げます。

## ミニデイだより



### アットホームなミニデイ

昨年秋ごろから、ミニデイサービスに新たに参加して下さる方が増えてきました。私たちのデイサービスは、介護認定の有無に関わらず、利用していただけるのが特徴です。少人数ですので、利用者さん同士も互いに個性を尊重しながら、少しずつ慣れて頂いています。

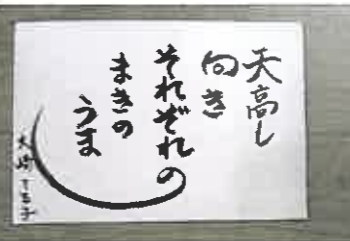
何年も通われている方のように「火曜日にまごころに行けば、気心知れたお友達やスタッフに会うことができる。あれやこれができる。」などとデイサービスの醍醐味を感じていただけるようにお迎えしたいと思っています。

昼食は、全てまごころ込めた手づくりのお食事です。利用者さんからも見えるキッチンから、ほわ〜んとよい香り。「今日は魚かなあ?」

お昼の団欒の時。利用者さんとボランティアさん、スタッフとみんなでお食事を頂きます。周りの方と、ご家族のお話や若い時の武勇伝(?)など色々なお話を伺いながら、談笑。「今日のお食事は、いかがですか?」「なにか召し上がりたいものありますか?」と伺ったりするなか、「五目ご飯が食べたいなあ」というリクエストがあればできる限りお応えしながら、担当スタッフが家庭と同じように腕によりをかけて作らせて頂いています。



今年も初詣に行きました



## 心つれづれ



### 吾輩は猫である

吾輩は猫である。名前…最初は性別不明のため「チー」だったが、オスとわかってからは「チー之輔」

ご主人様は達ちゃん。我が家の三男。一年前の夏、彼が登校途中のことである。交通事故で瀕死状態だった僕を拾い、助けてくれたのである。生後間もなく親のお乳も飲んだことのない、僕に、一晩中スポイトでミルクを吸わせてくれ、僕は九死に一生をえることができた。今は、我が家の四男として愛情をたっぷり注がれ、何不自由なく暮らしている。

二男の弘君は、僕をとってもかわいがってくれていたのに、結婚して僕を置いていってしまった。ところが最近、こともあろうに犬を連れて帰ってくる。僕のえさを勝手に食べ部屋中走り回り、お行儀悪いのに僕よりかわいがられているチワワ犬、ライバル出現!

長男の雄君は一見変っている。小さかった僕をとっても怖がり、僕の存在のせいで食事がのどを通らず、体重が4kgも減ったらしい。でも今はすっかり慣れて、平気で僕をいじめてくる。首をつかんで投げ、手足を引っ張りモップ状態。これが彼の愛情表現なのか?彼は重度の知的障害者で、言語がなく「ウーウー」とわめき、身の回りのことは家族に手助けしてもらっている。なんだか不憫で反撃できにやいにやあ...

この鬱憤は、彼の入浴介助に来てくれるヘルパーさんに...ガブッ!

協力会員 富田久美子

「心つれづれ」の  
原稿募集しています

心の残った出来事や言葉を  
文章にしてみませんか